

流水接岸

網走地方では流水接岸初日となりました」とタイトルで「二月三一日の観測によると、視界内の海面のほとんどが流水域となり、流水接岸初日となりました。昨年より「日早い」という海水情報が気象台から発表され、本格的な流水シーズの幕開けとなつた。

流水は、シベリヤ大陸に源を発する大河アムールの流れが、オホーツク海に大量の真水を流し込んで塩分を薄めて凍りやすくなつてゐる所にシベリヤ寒気の吹き出しで凍つた結果である。二月頃に北西部から広がつてくるのである。真冬の到来とともに拡大が進み、海流と等圧線にほぼ並行に動いてサハリンの東海上を南下し続ける。そして二月一日には、北海道のオホーツク海沿岸では、流水の接岸している所が多く、「動きに注意」となつたのである。

流水観測は自衛隊の飛行機が高度およそ二、三〇〇〇メートル上空から観測している。時には一〇〇メートルくらいまで高度を下げて流水の分布や水量を確認し、雲に覆われていればレーダー観測をする。さらに沿岸では北海道大学の流水観測施設の網走、紋別、北見枝幸の流水レーダーが半径およそ六〇キロメートルの範囲を連続して観測している。さらに

高空中からは気象衛星ひまわりやノア衛星の衛星写真をもとにオホーツク海全体の流水分布を気象庁が捕らえている。その総合が海水情報として、コメント付きの図情報で毎週2回金曜に発表されている。目視観測、レーダー、飛行機、衛星といった四段構えで流水を追つてゐるのである。

以前、流水観測のビデオを見る機会があつたが、濃紺の海に白い流水の帶が流れ、流水の縁が白から濃紺に微妙な色合いに変化してゐる映像にすっかり魅了されてしまつた。その流水の動きはまさに変幻自在である。ある時は渦巻き、ある時は一夜にして数キロメートルも南下して接岸、北辺の街を閉ざしてしまつう。

最近にはロシア船が流水から逃げ遅れ閉じ込められて海上保安庁の船が救出したというニュースが流れていた。いまやオホーツクの流水は地球規模で取り組まれており、「オホーツク海と流水」をテーマに流水の街、紋別で第一五回目の北方圏国際シンポジウムが開かれる。

变幻自在に変化するので待つてゐるだけでなく、流水観光船オーロラ号に乗つて流水を冲まで追いかけ、そしてガリンコ号で氷に戯れ、最後に網走から知床斜里駅までJR釧網線に乗つてオホーツクの海沿いをゆっくり走る「流水のノロツコ号」からの車窓からの流水を堪能してはいかがだ

ろうか。